

■開催6日前大馬作り開始

大馬の寸法は、長さ4・8m、高さ2・5m、幅1・8mもあります。その大馬を、開催のわずか6日前、10月16日から作り始めました。場所は、田主丸町農協向かいの野菜集荷場でした。『虫追い祭覚書』は馬作り役に次の6名を挙げています。

今村重徳（責任者）、池尻和守、吉岡正博、中野正義、大熊孝志、池尻吉和、外数名  
外数名には、馬作りを手伝った清水良則支部長をはじめ青壮年部の人が含まれていと思われまます。

まず馬の骨組みを真竹で組み、針金を巻いて補強しました。その外側に馬の形になるように、真竹を割ったへご竹を格子状に組ん

▼大馬の製作現場(昭和52年) ⑫



で丸みを出しました。怪我せぬよう針金を内側に入れたり、へご竹を作るのに、手間と時間がかかりました。

真竹は、馬作りが急に決まったので、現在の想夫恋田主丸店付近にあった竹屋から購入しました。10月に伐った真竹は虫が入らず長持ちします。これも大馬が今も使用できる1つの要因です。

馬の胴体の表面には、黒色の寒冷紗（かんれいしゃ）が目が粗い農作業用の薄い布）を用いました。頭部や尾は稲藁・目・耳・口はトタン板で作りました。

首から頭は、人形の飾り付けもした農協の鳥越美智夫さんが稲藁で製作しました。出来上がりを見て、田中課長は驚きました。稲藁で作ったとは思えないほどキリツとした顔つきで、特に切り揃えられたフサフサのたてがみは素晴らしく、凛々しいサラブレッドのようでした。

大馬が完成したのは、開催前日の10月21日でした。製作期間は、わずか6日。それだけで45年間もの使用が可能とは、なんと高品質な突貫工事でしょう。

こうして開催が正式決定した10月4日から、18日間準備を整えました。人数分の衣装や腰に巻くしめ縄、小屋入り（練習期間に入る決起大会）の実施に打上げの準備、食事の手配、案内状や覚書など印刷物の作成配布、「虫追い祭」の横断幕や幟旗なども、全て整えられました。そして翌日、昭和39（1964）年以来13年振りの虫追いがとうとう田主丸に戻ってきたのです。

■虫追い祭当日

昭和52（1977）年10月22日、晴れ渡った空の下、虫追い祭は行われました。

主催は、田主丸町農協青壮年部、農協パオニアクラブ、田主丸町虫追保存会、田主丸町教育委員会。まさに町ぐるみの開催です。

開催組織の構成は、名誉会長に田主丸町

▼虫追い祭覚書(昭和52年) ⑬

昭和52年 虫追い祭覚書		手 続 方	
期 日	昭和52年10月22日	中島 正徳	池尻 和守
主 催	田主丸町農協青壮年部 田主丸町農協パオニアクラブ 田主丸町虫追保存会 田主丸町教育委員会	立石 浩一	中野 正義
名 譽 会 員	高山 昌則	中野 正義	池尻 和守
会 長	永松 一	池尻 和守	今村 寛
副 会 長	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
幹 事 長	田中 高孝	池尻 和守	今村 寛
幹 事	上村 守康	池尻 和守	今村 寛
総 務 課 長	清水 良則	池尻 和守	今村 寛
文 書 課 長	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
人 形 作 成 課 長	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
馬 作 り	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
人 形 作 成 員	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
人 形 飾 り	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
音 楽	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
たいまつ	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
人 形 飾 り	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
太 鼓 方	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛
旗 方	池尻 和守	池尻 和守	今村 寛

▼当日の朝(昭和52年) ⑭



農協組合長・会長に農協青壮年部長、副会長にはパオニアクラブ会長・同副会長・農協参事・田主丸町教育委員会教育長、そして、顧問には田主丸町長が就いています。虫追いの各役は、手塚方20名、実盛方21名、馬方34名、外数名、鐘太鼓方11名、人形裁判（指導者などからなる監督役）12名で計98名余。この他に垂れ幕や幟旗、馬や鐘太鼓の運搬車などの係を含めれば、総勢で約140名が参加しました。ちなみに、令和元（2019）年第15回と令和4（2022）年第16回の役割人数は、人形裁判が指揮棒を振る2人だけになった以外は、人形・馬・鐘太鼓ともに昭和52年とほぼ同数となっています。

■午前中の行程

当日の全行程が分かる正式な資料は残っていませんが、当時の農協の青壮年部竹野支部長だった清水良則さんが日記に書き留めていました。その日記に沿って当日の動きを再現します。

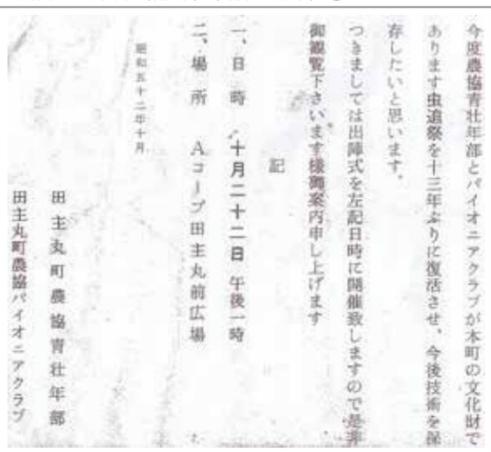
虫追い祭の一日は、朝8時頃に田主丸町農協前の広場に集合しました。9時から以前の地元虫追いと併し、田主丸天満宮で祈願祭、安全祈願のお祓いを受けました。お祓いは、月読神社の林深宮司が大麻（おおぬさ）を振る傍らで、パオニアクラブ池尻和守会

▼田主丸天満宮(昭和52年) ⑮



長が人形と馬にお清めの御神酒と塩を撒きました。その後、田主丸の各所を回りました。この時の順路は、次の通りです。  
・田主丸町役場（現在の久留米市田主丸総合支所の場所）  
・田主丸中央病院（現在の病院建屋北のバス待機場所で演技）  
・ゆうかり学園（現在の福岡県立田主丸特別支援学校の場所）  
・内山緑地（社屋前の駐車場で演技）

▼出陣式案内状(部分)(昭和52年) ⑯



取市場付近)  
・福植市場（苗木の取引場所。現在の福岡園材から約100m南の場所）  
・交換会（苗木の取引場所。現在の福岡園材の約70m西、現在の永松板金塗装の付近）  
・寿会館（飲食店。船越小学校入口交差点そば現在のミニストップ久留米田主丸店から国道210号を挟んだ向かい側）  
これで午前中が終了し、昼食となりました。現在の昼食場所のグリーンパレスは当時まだ無く、田主丸町農協に戻りました。食事は、農協婦人部が炊き出しに協力したAコープ田主丸店のおにぎり3個パックが配布されたようす。

■午後、Aコープで出陣式

午後1時からAコープ田主丸店で出陣式が始まりました。現在の出陣式は、田主丸天満宮で祈願祭に続けて境内で行います。なお、Aコープ田主丸店は1週間前の10月15日に開店したばかりでした。

出陣式には約1500人の観客が集まりました。大観衆を前に高山昌則組合長が挨拶しました。広報紙『農協田主丸』第54号によれば、その挨拶は「虫追い祭りをパオニアクラブ員の手で復活したことは喜ばしい。今後も毎年続け、町民の年中行事にしたい」というものでした。この発言に、パオニア池尻和守会長は「これは大変」と驚いてしまいました。今回の祭りを実現することに手一杯で、パオニアでは次回について議論したことがなかったのです。虫追い役割帳の『昭和52年虫追い祭覚書』にも「第1回」の文字はありません。

▼田中嘉津美さん(左から3人目)(昭和52年) ⑰



▼Aコープ田主丸店(昭和52年)(左⑱、右F)



また、池尻さんは、高山組合長が毎年ではなく「3年ごと」と発言したように記憶しています。まさに現在の虫追い祭りの開催間隔です。

一連の挨拶が終わると、店舗東側の駐車場で、1週間必死で練習した成果を披露しました。大馬が1周回ると、実盛と手塚が踊りと刀合わせ、そして、ぶつかり合いの合戦を2回展開して（清水さんの日記では1回）、観客の度肝を抜きました。こうして練習成果の発表を終えると、虫追いの行列は町中心部へと練り歩き始めました。